

2021年12月5日（降臨節第2主日C年）牧師メッセージ

「悔い改める」

（ルカによる福音書 3:1-6）

司祭ヨセフ太田信三

本日の福音の前半は人物名が沢山記されています。これらは世俗的な権力者のみならず、宗教的な権力者たちです。そして、それぞれが主イエスの殺害に関与することになる人々です。これだけの名前が列挙されていることを奇妙に感じられる方もおられるかもしれません。その理由は、これから語られる出来事が歴史上の事実であることを示すためと同時に、当時のパレスチナがいかに野心や欲望が渦巻いていたかを知らせるためです。これだけの権力者があの小さな一つの国にひしめいているだけでも異様ですし、なによりそれは人間的な思いが支配していた当時の状況を思わせるものです。たとえば、大祭司の名前が二人並べられているだけでもそのことはよく分かります。なぜなら、大祭司は本来一人であるはずなのに、人間的な、政治的な背景の中で、大祭司が二人立てられている、そういう異常な状況がこのことからだけでも分かります。さて、注目すべきはこの直後の記述です。

「アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリヤの子ヨハネに降った。」

前半の名前の列挙のあとに「神の言葉」が突然現れるところにハッとさせられます。人の思惑の混沌の中で、神が語る。神の言葉がヨハネに降ったのです。ドロドロとした人間の思惑渦巻く世界に神が直接介入する。いよいよその時が来ます。それは、主イエスが来られる道を備えるためでした。神の言葉が降ったヨハネは、悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。

わたしたちは主イエスをお迎えする降臨節を過ごしています。主イエスをお迎えするためには、わたしたちもヨハネの呼びかけを聞いて、悔い改めなければなりません。しかし、悔い改めるとは一体どういうことなのでしょうか。悔い改めはギリシャ語でメタノイアという単語です。方向転換とか視座を変えるなどと訳されます。神の方へ向き直るとか、福音に立ち返るとか言います。主イエスは、最も大事な掟として二つのことをわたしたちに示し、命じました。それこそ、「神を愛すること」と「隣人を愛すること」です。神から離れた生き方とは、この命令から離れた生き方のこと、つまり愛から離れた生き方のことです。ならば、悔い改めとは、愛のために生きることへと生き方を変えることです。神を愛し、人を愛する。互いに愛し合う。これこそ、最も重要な教えとして主イエスが教えてくださったことであり、旧約聖書から一貫して神がわたしたちに求めていることです。神の言葉は、愛に集約さるのです。愛することです。ヨハネに降った神の言葉もそうです。人の思惑がどんなにうごめいていようとも、悪意

が蔓延しようとも、愛こそがすべてを解く。だから、愛しなさい、愛することに生き方を変えなさいとヨハネは叫ぶのです。神を愛し、人を愛する。互いに愛し合う、愛のために生きなさいというこの叫びをわたしたちは今こそ聴かなければならないのです。

しかし、悔い改めて愛に生きるということは、わたしたちが自分の力だけでできることではありません。今日の福音で引用されているイザヤ書にはこうあります。「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに。でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。」今日のバルク書にも見られる箇所ですが、「谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。」という箇所、これはすべて受動態です。つまり。それらは神によってなされる、ということです。神はわたしたちに道を整え、真っすぐにするようにと言われます。しかし、谷を埋め、平地にしてくださいるのは神なのです。わたしたちは、悔い改めて、主を迎えるために道を整え備えようと決心したり、平和を求め、愛に生きようと決心したりしますが、山や谷に直面すれば狼狽し、曲がりくねったでこぼこ道に怖気づいてしまいます。しかし、悔い改めて備えよう、神と人を愛して生きようと動き始めるなら、神がその道を完成させてくださいます。ヨハネによる、悔い改めの洗礼というのは、つまり、「わたしは悔い改めます。神さまを愛し、互いに愛し合って生きます。

だから神さま助けてください」といういわば決意表明のようなものだったのです。

ヨハネは愛のために生きる決意を求めたのです。わたしたちが愛に生きる決意をするなら、そこに神の助けが必ずある。神と人との共同作業によって、この世に愛が満たされるのです。

神の助け。それは他でもない、主イエスこそが、わたしたちが愛そうとする時に差し伸べられる神の助けです。主イエスの助けがあるから、わたしたちは愛に生きることができます。主イエスはわたしたちに神の愛を届けてくださいます。あなたは神に愛されている。その愛を受けて、あなたも神と人とを愛しなさい、という愛の道を示されました。そして、たとえわたしたちが自分の力で悔い改めることができず、愛する生き方ができなくとも、主イエスが十字架の上で、神とわたしたちとの関係を永遠に結んでくださる。だから、わたしたちは何度でも赦されて、愛に生きる、愛に生き直すことができます。十字架上の主イエスの死こそ、神の愛をわたしたちに伝えます。神はその愛への道を開くためにご自分の独り子の命を差し出してくださった。主イエスによって神の愛が運ばれてくるのです。

救い主がお生まれになる。その備えの時にあって、世の権力者たちの声に惑わされることなく、ヨハネの呼びかけを聴き、悔い改めを決意しましょう。アドベントクランツの二本目の灯りは「平和」です。それは、わたしたちが悔い改め、

愛に生きようとすることによってこそ、そしてそこに神の助けがあるからこそ実現するものです。わたしたち一人ひとりが愛に生きようと決意し、神によってでこぼこの道が真っ直ぐにされて愛への道が通ったとき、その道の上を神の愛を運ぶ主イエスが来てくださいます。わたしたちが愛のために、神を、互いを愛して生きられますように。神の助けを願い、求めながら、この礼拝を続けてまいりましょう。